

# 今田地域部会

メンバー

小林 武司 熊谷 勉 大野 章 古家後勝一  
竹山小百合 橋元 勇 吉村 隆志



テーマ

## 地域の夢を現実に！

### 1. 今田手づくり工芸村の実現

今田地区には多くの芸術家が移住して活躍している。これは、今田地域には丹波焼があり、また地域の特性、歴史に感銘し、この地域に魅力を感じてこられた方ばかりである。この今田地域に今田手づくり工芸村の実現を提言する。

今田地域には陶の郷や新たに県立陶芸館（仮称）の建設が始まり、個性ある芸術家達を多く集め

た地域づくりができる素地があると考える。

工房付き市営住宅を建設し、個性ある芸術家の方々に集まっていただくプランは、魅力ある地域づくりに大きなインパクトを与えることができると考える。手づくり工芸村の持つ意義は大きく、前回に引き続きの提案とし、実現を期待する。

## 2. 「今田町自然の里構想」の具現化を

「もし今田町に丹波焼の窯元がなかったら、」逆転の発想をしてみた。「まち」の活性化についてどのようにして摸索したであろうか？と考える。緑豊かな自然をいくら大声でうたっても、人・車は美しいなあ！と足早に通り過ぎるのではないかと。

丹波焼以外に特産品の「黒豆」「丹波栗」などがあり、過去には凍豆腐の産地であった。今に思えばもっと地場産業の育成のため、またまちおこしのため行政・商工会等は支援策を講じるべきであったのではないかと。大量生産の産業革命に負けてしまった。また、冬には杜氏として酒造メーカーに出稼ぎに行き地場産業では生活が成り立たなかった時期があったのは現実であり地域性の問題も多い。

丹波栗の生産者組合がある。聞くと農協へ出荷すると安値となり其々が販路を開拓して販売をしている。これが悪いとは言いたくはないが、他の特産物の例として伊丹市、川西市ではイチジクの栽培が盛んに行われている、消費地が近くにあり商売がし易いだろうと思っていたが、農家は「畑」での直売りは行わず、すべて組合へ出荷しなければペナルティが課せられている。

丹波の黒豆は超一級品である。岡山県に行っても、長野県に行っても「丹波の黒豆」の加工品がみやげ物として販売されている。現地（岡山県）の田畑には黒豆が沢山栽培されていた。ブランド名が一人歩きして他地域で稼ぎまわっている。品質まで保証していないが購入した方はこれがあの有名な丹波の黒豆か？とその味を覚える、長い年月には母屋を盗られてしまうのではないかと。

平成10年に提言された今田町観光開発研究会の提言書の内容の実現を官民協働で図りたい。

## 3. 命を守る消防・救急体制と情報通信

### (1) 救急体制

今日も救急車が現場に向かい病院へ……

出動状況は、平成4年812件、平成13年には1,372件と増えている。急病や事故の時、出来るだけ早く病院へ搬送する体制が必要であり、今田地域では急病になっても総合病院で受診するまで約1時間かかり、助かる命も助からない。

そこで先ず、救急車を南西方面の国道372号線と国道176号線が交差する地点でJR駅も近くに2ヶ所あり、今後の開発の望みもあり人口増が考えられる地域に配置してはどうだろう。どうしても人口密度の高いところへ設置される各施設と同様、総合病院も中央にあるため、救急車は市の周辺地域に配置をお願いしたい。

今田中学校プロジェクトチーム「エマ」の生徒達がチャレスポタイム（総合的な学習の時間）で

取り組まれた「命を大切にすまちづくりを」での救急や防災についてのまとめが一番大切なことである。

		現 在	本署・分署
0～5分で 到 着	比率	27.8%	43.6%
	人数	13,280人	20,827人
6～10分で 到 着	比率	43.3%	45.4%
	人数	20,684人	21,688人
10分以内 合 計	比率	71.1%	89.0%
	人数	33,964人	42,515人

**私たちの願い**

① 篠山市消防本部を本署と分署に分ける。  
② 本署・分署化する時は、できるだけ多くの人をカバーできる場所に設置する。

↓

みんなが安心して暮らせるまちづくり

**全ての人の命を大切にすまちづくり**

今田中学校プロジェクトチーム「エマ」「命を大切にすまちづくりを」より

## (2) 情報通信

救急体制の中に連絡が遅れて助からない場合もあり、最近情報信機が各家庭に増えてきている。その中でも携帯電話が増えてきているが、今田地域は電波の谷間だと言われ、通信出来ない個所が沢山ある。急病や事故に出会ったときなど、急ぐ時に連絡が取れるようにアンテナの増設を電話会社に働きかけ、行政も県と市、民間会社と共同で情報通信が隅々まで行きわたるよう整備しなければならない。ある町ではテレビ電話を取り入れて行政情報をいち早く町民に伝える住民サービスがなされている。

消防無線も電波が届かない所もある。今までの提言の中で絶えず言われてきていることであり、100人委員会第1期に引き続き各提言を尊重し、「命を守る」行政こそより心豊かな篠山市になると考える。

## 4. 人にやさしい道づくり

今田地域における道路は、地域内を東西に通じる国道372号を基軸にして県道「下立杭柏原線」、「黒石三田線」、「上鴨川木津線」の3路線に主要地方道「西脇篠山線」があり、市民の至便さを保っている。

しかしながら、どの路線を見ても地形上、止むを得ない状況もあるかもしれないが、道幅が狭く、カーブも多く、歩道が完備されていない区間が多く残っている。これらの路線は、いずれも通勤・通学道であるばかりでなく、特に国道372号は、阪神・淡路大震災以降、多くの大型車両が通行するようになった。その他の県道も、通過車両に加えて観光車両が多く大変危険な状況に冒されている。

成人は勿論、通学生を持つ保護者にとっては毎日が、交通事故と背中合わせの状態、また救急体制を考える中、道路事情が悪ければそれだけ遅くなり、安心・安全な日々がおくれない。是非とも、人にやさしい環境に配慮した道路整備を、地域住民の意見・協力を反映しつつ、緊急課題とし

て取り組んでいただき早期改良を望む。

また、平成16年春から順次完成が予定されている今田農業公園とその中でできるこんだ薬師温泉施設の建設に合わせて国道より最短距離で今田支所付近へアクセスできる「庁舎中央線(仮称)」の新設が必要である。特に農業公園・温泉施設をはじめ、中学校、診療所、さぎそうホール、市グラウンドなど教育・福祉施設が集中しており、交流活動の推進、市民の福祉向上等のために早期実現を期待する。

## 5. 帰ってきたホタルと子どもたち

田植えが終わり、かえるが夕方に鳴きかける頃、ホタルが飛び交う。6月上旬が一番よく飛び交う。橋の上から眺めていると、乱舞の世界、自然にホタルの光に誘われひと時を過ごす。「ホー、ホー、ホータル来い…」とホタルを呼びながら走り回った子どもの頃を思い出す。あるところでは、ホタルが川から山へ一斉に登るときがある。その光景は神秘的であり、かつ幻想的である。

しかし、夜になると車が増え、「ホタル狩り」といって観光バスがやってくる。挙句には、ホタルを捕って商売にする人達まで現れる。これでいいのだろうか？

洪水のたび河川改修が行われ、コンクリート製品で川が作られ、川は人々を寄せ付けない時代があった。しかし、最近では河川工事の方法も見直され自然の形を残す工法が取り入れられたが、魚が住める川の深みが少ない。

木津地域では、河川公園(仮称)が計画され、いよいよ完成を目指した工事が始まる。県立丹波林間学校との連携を謳い、子供達の遊び場にも、と計画されたこの公園だが、林間学校の廃止に伴うグラウンドゴルフ場計画で軌道修正されたにせよ、ここが地域の子どもたちにとってもかけがえのない遊びの空間になるよう期待している。戸外で遊ぶ子どもたちが見られなくなった時代、子どもが小川で水遊びをしたり、ジャブジャブ魚とりをしている光景を再現したい。川に生い茂る草を刈り取り、ゴミは持ち帰るようゴミ箱も設置せず、地域で環境問題に取り組まなければ子どもたちやホタルを守れない。

あらゆるところでネコ柳や桜などの植栽を進め、川の空間を活かしたオアシスを創造する。四季折々に彩る今田の山々を背景にホタル飛び交う「今田の里」づくりを提案する。

## 6. 『ぬくもりの郷』(農業公園・温泉)を核とした地域全体の整備を —農業、里山林整備、ハイキング・登山ルート—

### (1) 里山林整備、ハイキング・登山ルート

今田地区農業公園・こんだ薬師温泉施設(愛称:ぬくもりの郷)は、ひとつの目的として都市との交流を掲げている。また農業を通じての交流とともに森林を活用した交流を深めることも大きな意義がある。

今田地域には、日本六古窯のひとつ「丹波焼」があり、この観光資源とぬくもりの郷を連携しない手はない。絶対的な多くの人々が利用することは想定しにくいだが、陶の郷、建設中の県立陶芸館

(仮称)そして窯元集落から、和田寺山を越えてぬくもりの郷へのハイキング(登山)コースを整備し、温泉に浴していただくことを具現化したい。またこのコースは近畿自然歩道整備計画事業で整備されるようで大いなるPRにもなり、荒廃しつつある里山の活性化にも繋がるだろう。また、古市駅前に「白髪岳」方面への登山案内掲示板がある。長年の風雨にさらされ色が褪せてしまっている。今がチャンス、化粧直しされるまでに今田地域(今田町四斗谷)へのルートを早急に開き、併せて駅前広場に新しく設置したら如何かと思う。

## (2) 愛される温泉施設

温泉施設は市民の健康維持・増進に寄与する目的ももっている。ハンディキャップを持った方、手術痕を気にしている人などが気兼ねなく安心して入浴できるシステムを整備することを希望するが、このような施設は、実際に入浴する立場に立って整備すべきで、健常者と同一施設内に設けるのが良いのか、独立した専用の施設を他に設けるべきなのか熟慮が必要であろう。

運営方法の中で、市民により親しまれ、愛される施設のあり方として、シルバーディ(高齢者の日)、チルドレンズディ(子どもの日)などを設け入浴料金割引サービスなどをしてはどうだろう。また出来ればマイクロバスの1台も用意して、市民のニーズに対応出来るよう対策を講じなければ、近場の温泉に客を奪われてしまう。待ちの体制は一昔前の経営である。

その他、温泉の効能を積極的に活用するため、法的に困難な面もあるが、治療、予防医療の研究と取り組みを期待する。

## (3) 農業と地域経済の活性化

公園が出来て地元商店が被害者になるのではなく、それを大いに活用して人が集まる仕掛に知恵を出して欲しい。販売面では、重量物は宅配を行い、翌日には客の自宅に新鮮な野菜が届く様にす等販売の拡充と販路開拓に協働参画があっても良いのではないか。

この施設を管理・運営する予定の会社(第三セクター)には商工会、農協等も出資される予定となっており、当事者として、地域全体での積極的な受け入れ態勢がハード、ソフト両面で必要である。行政は「金は出すが口は出さない」の姿勢で、市民・従事者が知恵を出すことが大切である。何でも住民パワーで“やれることはやる”の心構え大切と認識する。

# 7. 今田地区の子どもたちに合併のメリットを

今田地域においては、保育園、幼稚園、小学校そして中学校と全て同一校区になっている。(保育園については、希望園に入園可能だが、)

このことが原因とは言いきれないが、一般的に今田中学校の卒業者は、高校の中途退学者が多いと、ずっと以前からよく耳にする。保育園から中学校まで少人数でずっと同じ環境での価値観が自然と身に付いてしまい、切磋琢磨して“生きる力を育む”能力が、劣っているように思われる。

高校進学と同時にあたたかい温室の中から急に冬の大海に投げられたようなギャップと戦い続け、力尽きて不登校、中途退学への道を辿っているのかもしれない。今田校区の子供達のために体育や音楽など可能な教科において、定期的な他校との交流学习の実施をお願いしたい。

篠山市の明日を託す子供達のために教育問題は、市の最優先課題と考え、市としての柔軟な対応を期待している。

## 今田地域部会 部会開催記録

	開催日	場所	内容
第1回	平成13年9月25日	今田支所	活動内容について
第2回	平成14年1月15日	〃	提言・検討 第1期提言報告についての研究
第3回	2月12日	〃	活動内容ごとの調査、研究、協議
第4回	3月8日	〃	活動内容のまとめ
第5回	3月20日	〃	活動内容報告の確認
第6回	7月8日	〃	活動内容及び予算について
第7回	11月12日	〃	提言内容について
第8回	11月29日	〃	提言内容について
第9回	平成15年1月20日	〃	陶器ingコンサート(講演)参加及び報告書作成について
第10回	2月27日	〃	報告書の作成について
第11回	3月17日	〃	報告書のまとめについて